

第5回
造血器腫瘍免疫療法研究会
学術集会

プログラム・抄録集

会長
赤塚 美樹
藤田保健衛生大学血液内科学

ご挨拶



第5回 造血器腫瘍免疫療法研究会 会長 赤塚 美樹

この度、第5回造血器腫瘍免疫療法研究会総会を、名古屋市の「ウインクあいち」において主催させていただくことを大変光栄に存じます。開催にあたりまして、たくさんの皆様のご協力をいただきましたことに心よりお礼を申し上げます。

最近では次世代ゲノムシーケンシングなどの手法を駆使して、さまざまな遺伝子変異と治療標的となる遺伝子を同定する分子標的療法研究が花盛りです。すでに CML や APL では治癒と思われる症例も出始めておりますが、まだまだ他の造血器腫瘍ではかならずしも promising な標的は同定されておらず、特に微小残存病変の時期における有効な免疫療法の開発は急務と言えます。

今回、『新たなシーズの開発と臨床試験から見えてきた新たな課題』というサブテーマを付けました本会の趣旨につきましてご紹介させていただきます。近年、臨床に直結する研究成果が求められ、基礎研究に十分な研究費と時間を投資しづらくなってきているように感じますが、5年や10年先を見越した新しいシーズの開発を続けられない限り未来は開けません。最近注目を浴びている Chimeric antigen receptor (CAR)-T 細胞については CD19 以外の新たな標的の検討が始まっております。また、臨床試験に至ったものの proof of concept が十分達成できない時こそ、その原因の究明のため bench へのフィードバックは重要であります。今回はすでに行われている臨床試験における成果と限界、そして今後の課題についても議論ができることと期待しております。

さらにランチョンセミナーでは、最近厚生労働省より認可がおりた TCR-T 療法の話題を紹介して頂きます。また、ミニシンポジウムでは、免疫療法関連諸学会と企業、行政が策定している細胞培養ガイドラインについて各方面の立場からご発表いただき、討論の機会を設けましたのでご期待ください。1日間の会期を盛りだくさんにした結果、投稿演題の半数だけ口頭発表となりましたが、伝統は堅持し全ての演者にポスターを作成いただき質疑応答を深める時間を作りました。少しでも多くの情報を得て、皆様の今後の研究へお役立ていただければ幸いです。

懇親会は土曜日のプログラム終了後に会場近くのホテルで予定をしております。お出しする予定の「名古屋めし」は最近知名度を上げてきておりますので、懇親会で是非ご堪能下さい。名古屋は日本の中心地にあり、交通の便も非常に良好です。市内にも徳川美術館や世界最大のプラネタリウムなど、観光スポットは盛りだくさんです。1泊してお楽しみの上、余裕をもって帰路についていただけたと思います。例によって真夏の研究会ではありますが、免疫療法に興味のある先生方のご参加を心待ちにしております。

参加者の皆様へ

受付場所・時間

受付場所	8月24日（土）
ウインクあいち 11階 1109 会議室（会場の向かい側）	08:30 ～ 16:00

参加費

項目	参加登録
本研究会 会員	¥5,000
本研究会 非会員	¥10,000
研修医・コメディカル・学生	無料
抄録集	¥1,000
懇親会（キャッスルプラザホテルにて）	¥2,000

参加証

- ・参加費と引き換えに参加証をお受け取りの上、所属・氏名をご記入ください。
- ・期間中は会場内では必ずご着用をお願いします。

抄録集

- ・プログラム・抄録集は当日忘れずにご持参ください。
- ・当日も受付にて1部1,000円で販売いたします（部数に限りがありますのでご了承ください）。

運営委員会

- ・8月24日（土） 8:40～9:10 1109 会議室にて行います。

総会

- ・8月24日（土） 13:30～13:50 1101 会議室にて行います。

発表演者の皆様へ

1. 受付ならびに入場について

演者は本研究会会員でなければなりません。

未入会の方は学会当日に受付にて入会の手続きをお願いします。後日研究会事務局より振込用紙を送付させていただきます(年会費 5,000 円、学生・研修医は別途考慮します)。

2. 口演発表時間

一般演題は、発表 7 分、質疑応答 5 分 をお願いします。

ミニシンポジウムは、発表 15 分、質疑応答 5 分 をお願いします。

3. 発表形式

- ・セッション開始 1 時間前までに PC 受付までお越し下さい(データは USB メモリーでご持参下さい)。Macintosh ご使用の演者以外の方は、ご自身の PC の使用は極力避けるようご協力をお願いします。
- ・ Macintosh ご使用の方は、MiniD-sub15 ピンコネクタに適合するアダプターをご持参下さい。事務局でも用意しますが、適合しない場合があります。また USB 端子が使えるアダプターのご持参もお願いします。念のためバックアップ用データを USB メモリーでご持参下さい。
- ・ ファイル名は「ご自身の演題番号_演者名.ppt (または pptx)」として下さい。
- ・ OS とアプリケーションは以下のものをご用意いたします。

Windows 7、Microsoft Office PowerPoint 2010

- ・ PowerPoint 2003 以上で作成されたファイルは動作可能ですが、PC 受付で確認下さい。また動画使用を希望される方はご自身の PC をお使い頂く場合があります。
- ・ 画像解像度は XGA (1024x768) に設定して下さい。
- ・ USB で持ち込まれる発表データは事務局のパソコンにコピーしますが、発表後には責任をもって完全に消去いたします。
- ・ ご持参いただいたメディアを介してのウイルス感染事例が報告されています。ご発表データをご持参いただく状態にした後、そのメディアのウイルススキャンを必ず行って下さい。
- ・ 発表セッション開始時刻の 10 分前までに会場前方にご着席ください。
- ・ ご発表の際は、演題に準備したモニター、キーボード、マウスを用いて発表して下さい。(ご自身の PC を使用する場合を除く)
- ・ PC 発表のみで、映写は 1 面です。

※ 非常にタイトなスケジュールのため、時間厳守にご協力ください。

4. ポスター討論

- ・ 一般口演の演者もポスターをご準備ください。
- ・ 演題ごとに演題番号をつけたポスターパネルをご用意致します。貼付有効面のサイズは、横 90cm× 縦 180cm となります。
- ・ ポスター討論は、14 時 00 分～14 時 50 分です。発表者はポスターの前で討論をお願いします。
- ・ ポスターの撤去はミニシンポジウム終了後、速やかに行ってください。

5. Buzz Session

- ・ 5 名の分野別 Expert にモデレーターを務めていただき、会場の 5 か所に分散していただきます。
- ・ 各 Expert の略歴と質問・討論可能なテーマが抄録集内に記載してありますので、参考にしてください。
- ・ 参加者は興味があるモデレーターの場所に集まり、質問とディスカッションに参加してください。
- ・ 時間内に複数のモデレーターの場所に移動できます。
- ・ 時間が限られていますので、なるべく多くの方が質問や意見を述べることができるようご協力ください。
- ・ 各モデレーターは質問・ディスカッション内容のうち、全体でシェアすべきと判断した要点を、スクール形式に戻った後、5 分ほどで発表いただきます。
- ・ その後のフロアや懇親会でのディスカッションに繋がられることを期待します。

交通のご案内

会場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

TEL: 052-571-6131（受付 9:00～20:00） FAX: 052-571-6132

電車をご利用の場合：

（JR・地下鉄・名鉄・近鉄）名古屋駅より

* JR名古屋駅桜通口から

ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

* ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

飛行機をご利用の場合：

* 中部国際空港（セントレア）より名鉄空港特急利用にて最短で約28分

* 県営名古屋空港より空港バスにて18～23分

お車をご利用の場合：

* 名古屋高速都心環状線「錦橋」出口より約6分

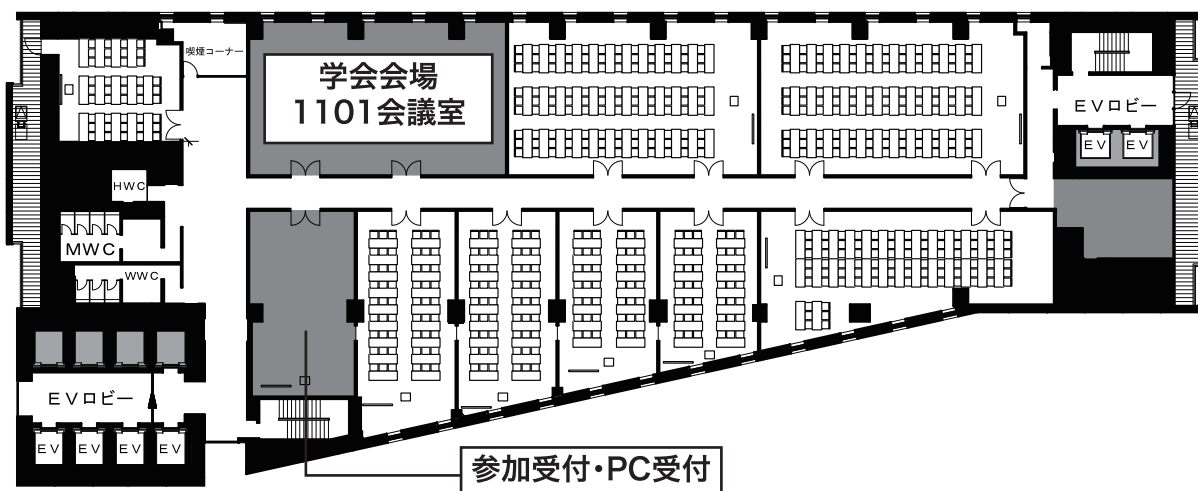
* 駐車場…収容台数123台

* 当日は駐車場が混雑いたしますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



会場案内

ウインクあいち 11階 会場



日程表

時 間	内 容
8 : 30～	受付開始
8 : 40～ 9 : 10	運営委員会
9 : 25～ 9 : 30	開会の挨拶
9 : 30～10 : 20	セッション1（一般講演 S 1・1～4） ワクチン療法・臨床試験と課題 座長： 大阪大学・尾路 祐介、九州大学病院・岡崎 利彦
10 : 20～10 : 30	ブレイク
10 : 30～11 : 20	セッション2（一般講演 S 2・1～4） 腫瘍免疫と免疫逃避 座長： 新潟大学・成田 美和子、金沢大学・近藤 恭夫
11 : 20～11 : 30	ブレイク
11 : 30～12 : 20	セッション3（一般講演 S 3・1～4） 抗体療法と遺伝子治療 座長： 名古屋市立大学・石田 高司、自治医科大学・塚原 智典
12 : 20～12 : 30	ブレイク
12 : 30～13 : 20	ランチョンセミナー 遺伝子改変 6 細胞療法の開発経緯と臨床試験へのトランスレーション 座長： 藤田保健衛生大学・恵美 宣彦 演者： 三重大学 遺伝子・免疫細胞治療学講座・影山 慎一
13 : 30～13 : 50	総会
13 : 50～13 : 55	ブレイク
13 : 55～14 : 45	ポスターセッション
14 : 45～14 : 50	ブレイク
14 : 50～15 : 50	Buzz Session 座長： 自治医科大学・小澤 敬也、東京大学・高橋 聡
15 : 50～15 : 55	ブレイク
15 : 55～17 : 00	セッション4（一般講演 S 4・1～5） 抗腫瘍エフェクター細胞 座長： 札幌北榆病院・小笠原 正浩、名古屋大学・西田 徹也
17 : 00～17 : 10	ブレイク
17 : 10～19 : 20	ミニシンポジウム（MS・1～6） 免疫細胞培養ガイドラインと現場における対応 座長： 愛知県がんセンター研究所・葛島 清隆 国立がん研究センター中央病院・平家 勇司
19 : 20～19 : 25	閉会挨拶
19 : 25～	移動時間
19 : 45～21 : 30	懇親会（情報交換会） 会場：キャッスルプラザ 3 階 孔雀北の間

プログラム一覧

プログラム

9:25 ~ 9:30 開会の挨拶

9:30 ~ 10:20 セッション1 (一般講演 S 1-1 ~ 4)

ワクチン療法・臨床試験と課題

座長：尾路 祐介（大阪大学）
岡崎 利彦（九州大学病院）

S 1-1 WT1 ワクチンを用いた難治性小児血液腫瘍患者に対する同種移植後免疫療法 第II相試験

WT1 based immunotherapy after stem cell transplantation for pediatric hematological malignancy: Phase II clinical study

○橋井 佳子¹、保仙 直毅²、宮村 能子¹、西田 純幸³、坪井 昭博⁴ 尾路 祐介⁵、岡 芳弘⁴、大藺 恵一¹、杉山 治夫⁵

1 大阪大学医学部医学系研究科・小児科、2 同・生体情報学、3 同・癌ワクチン療法学、4 同・癌幹細胞制御学、5 同・機能診断学

S 1-2 RNF43 ペプチドパルス樹状細胞ならびに RNF43 ペプチド特異的活性化リンパ球を用いた進行固形腫瘍患者に対する強化養子免疫療法 第I相臨床試験

A phase I study of adoptive immunotherapy using autologous dendritic cell pulsed with a RNF43 peptide in patients with advanced solid tumors

○土方 康基¹、岡崎 利彦²、田中 芳浩²、小林 慎一³、山田 一成¹、丸本 朋稔³、谷 憲三朗^{1,2,3}

1 九州大学病院 先端分子・細胞治療科、2 九州大学病院 ARO 次世代医療センター、3 九州大学 ゲノム病態学分野

S 1-3 当院で行っている細胞治療に関する管理・運営

The management of cell therapy in Aichi Medical University

○加藤 栄史^{1,2}、吉川 和宏²、中山 享之^{1,2}、宇留間 元昭^{1,2}、片井 明子^{1,2}、高 四強^{1,2}、安藤 高宣^{1,2}

1 愛知医科大・輸血部、2 愛知医科大・細胞治療センター

S 1-4 ワクチン接種後 / ミスマッチ移植後の LOH/ 6pUPD を防ぐ

Protection for LOH/ 6pUPD of cancer cells after peptide vaccination and mismatch stem cell transplantation.

○佐治博夫、小島裕人、楠木靖史

公益財団法人 HLA 研究所

10:20 ~ 10:30 ブレイク

10:30 ~ 11:20 セッション2 (一般講演 S 2-1 ~ 4)

腫瘍免疫と免疫逃避

座長：成田美和子（新潟大学）

近藤 恭夫（金沢大学）

S 2-1 eEF2 の癌遺伝子様機能と eEF2 タンパクに対する in vivo 液性免疫応答および in vitro 細胞性免疫応答

Oncogenic function of eEF2 in cancers and in vivo humoral and in vitro CTL responses against eEF2 protein

○尾路 祐介¹、辰巳 直也¹、福田 茉莉²、中塚 伸一³、藤木 文博⁴、中島 博子⁴、長谷川 加奈²、根津 理一郎⁵、森井 英一⁶、西田 純幸⁷、保仙 直毅⁸、坪井 昭博⁷、岡 芳弘⁹、杉山 治夫²

1 大阪大・院医・癌幹細胞制御、2 大阪大・院医・機能診断、3 関西労災病院・病理、
4 大阪大・院医・癌免疫学、5 西宮市立中央病院、6 大阪大・院医・病理、
7 大阪大・院医・癌ワク、8 大阪大・院医・生体情報、9 大阪大・院医・呼吸アレルギー内科

S 2-2 骨髄中の非造血幹細胞に対する CTL の攻撃は再生不良性貧血を引き起こす

The CTL attack specific for non-HSCs in bone marrow induces aplastic anemia.

○丸山 裕之¹、片桐 孝和²、中尾 眞二¹

1 金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学、2 金沢大学医薬保健研究域病態検査学

S 2-3 ビタミン D3 刺激によりレチノイン酸高産生能を獲得するヒト樹状細胞の同定

Identification of human dendritic cells acquiring a high level of retinoic acid-producing capacity in response to vitamin D3

○佐藤 貴之¹、北脇 年雄¹、藤田 晴之¹、岩田 誠²、伊豫田 智典³、稲葉 カヨ³、樗木 俊聡⁴、坂井 義治⁵、高折 晃史¹、門脇 則光¹

1 京都大学大学院 血液・腫瘍内科学、2 徳島文理大学 香川薬学部 生体防御学、
3 京都大学大学院 体制統御学、4 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 生体防御学、
5 京都大学大学院 消化管外科学

S 2-4 新規 CML 患者に対するダサチニブ療法時の治療効果と免疫調節作用の検討

The relationship of increase of Lymphocytes and efficacy of Dasatinib therapy

○村井 一範、伊藤 薫樹、古和田 周吾、小宅 達郎、上原 さつき、峯 貴浩、藤島 行輝、石田 陽治
岩手医科大学血液・腫瘍内科

10:20 ~ 10:30 ブレイク

座長：石田 高司 (名古屋市立大学)
塚原 智典 (自治医科大学)

S 3-1 新規 CD20 キメラ抗原レセプター遺伝子導入 T 細胞の樹立と CD20 低発現標的に
対する効果の検討

Development of novel anti-CD20 chimeric antigen receptor; Effect against the low-CD20
expressing targets

○渡邊 慶介、寺倉 精太郎、後藤 辰徳、葉名尻 良、今橋 伸彦、西田 徹也、村田 誠、直江 知樹
名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学

S 3-2 若年性骨髄単球性白血病に対する GM-CSF 受容体を標的とした CAR 遺伝子改変 T 細胞
療法の開発

CAR-modified T-cell therapy targeted to GM-CSF receptors for juvenile myelomonocytic leukemia

○中沢 洋三¹、末木 茜²、松田 和之²、坂下一夫¹、小池 健一¹

1 信州大学医学部小児医学講座、2 信州大学医学部附属病院臨床検査部

S 3-3 再発難治 B 細胞性腫瘍に対する抗 CD38-CAR 療法とその同種造血幹細胞移植への
応用の可能性

T-cell therapy with anti-CD38-CAR during pre- or post-bone-marrow transplantation
period in relapsed or refractory B-cell neoplasias

○三原 圭一郎¹、吉田 徹巳¹、美濃 達治¹、バッタチャリーヤ ジョイータ¹、木村 昭郎¹、
瀧原 義宏²、一戸 辰夫¹

1 広島大学・原爆放射線医科学研究所・血液内科研究分野、2 同・幹細胞機能学研究分野

S 3-4 HLA-A2 拘束性に提示されたマイナー抗原 HA-1H を認識する抗体の単離と CAR-T の
機能

Construction and molecular characterization of a T-cell receptor-like antibody and CAR-T
cells specific for minor histocompatibility antigen HA-1H

○稲熊 容子¹、赤塚 美樹^{1,2}、赤堀 泰³、村山 裕子¹、辻川 朱里¹、平松 可帆²、西村 泰治⁴、
葛島 清隆²、恵美 宣彦¹

1 藤田保健衛生大学医学部 血液内科、2 愛知県がんセンター研究所 腫瘍免疫学部

3 藤田保健衛生大学医学部 総合医科学研究所、4 熊本大学大学院生命科学研究部 免疫識別学分野

遺伝子改変 T 細胞療法の開発経緯と臨床試験へのトランスレーション

Clinical application of gene-engineered T cells, translating pre-clinical research to human clinical study

座長：恵美 宣彦（藤田保健衛生大学）

演者：影山 慎一（三重大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫細胞治療学講座）

共催：ブリストルマイヤーズ株式会社

13:30 ~ 13:50 総会

13:50 ~ 13:55 ブレイク

13:55 ~ 14:45 ポスターセッション（P-01 ~ 13）

P-01 HLA class II 拘束性 WT1 由来ヘルパーペプチド特異的 TCR を導入された CD4⁺T 細胞はヘルパー活性と細胞傷害活性を有する

○藤木 文博¹、林 兪宏²、勝原 晶子³、岡 芳弘^{2,4}、坪井 昭博⁵、青山 奈央³、谷井 里江³、中島 博子¹、森本 創世子³、保仙 直毅³、西田 純幸⁵、尾路 祐介⁶、熊ノ郷 淳^{2,4}、杉山 治夫³

1 大阪大学大学院・医・癌免疫学、2 大阪大学大学院・医・呼吸器免疫アレルギー内科

3 大阪大学大学院・医・機能診断科学、4 大阪大学・免疫学フロンティア研究センター

5 大阪大学大学院・医・癌ワクチン療法学、6 大阪大学大学院・医・癌幹細胞制御学

P-02 WT1 ペプチドワクチンによって遺伝子学的寛解を維持している CML 例—長期間増幅されている WT1 テトラマー陽性細胞の解析

Successful treatment of molecularly exacerbated CML with WT1 peptides — association with long-term generation of WT1 tetramer⁺ T cells

○成田 美和子¹、増子 正義²、西澤 幹則¹、内山 孝由¹、岩谷 俊平¹、大岩 恵理¹、岩渕 南¹、佐藤 直哉¹、井田 桃里²、曾根 博仁²、高橋 益廣¹

1 新潟大学大学院保健学研究科 血液・腫瘍検査学

2 新潟大学医歯学総合病院 血液・内分泌・代謝内科

P-03 再発ハイリスク同種造血幹細胞移植後患者に対する WT1 ペプチドワクチン臨床試験
Clinical trial of WT1 peptide vaccination post allo HSCT in patients with high risk for relapse

○保仙 直毅¹、前田 哲生²、福島 健太郎²、森本 創世子⁵、中田 潤³、中江 吉希²、西田 純幸⁴、坪井 昭博⁴、近藤 忠一⁶、門脇 則光⁶、日野 雅之⁷、尾路 祐介⁸、岡 芳弘²、熊ノ郷 淳²、金倉 譲²、杉山 治夫

大阪大学 1 生体情報科学、2 血液腫瘍内科、3 呼吸器免疫アレルギー内科、4 癌ワクチン療法学、5 癌幹細胞制御学、6 機能診断科学、7 京都大学 血液腫瘍内科、8 大阪市立大学 血液腫瘍内科

- P-04 人工抗原提示細胞を用いた HLA-A*24:02 拘束性サバイビン特異的 CTL の誘導**
Efficient generation of HLA-A*24:02 restricted survivin-specific CTL using artificial antigen-presenting cells
 ○ 小笠原 正浩¹、太田 秀一¹、平野 直人²
 1 札幌北楡病院 内科、2 トロント大学
- P-05 同種移植後再発予防・治療を目的としたマイナー抗原ワクチン臨床試験**
Vaccination with minor histocompatibility antigen-derived peptides in post-transplant patients with hematological malignancies
 ○ 赤塚 美樹^{1, 2, 3}、田地 浩史²、森島 泰雄²、宮村 耕一⁴、小寺 良尚⁴、高橋 利忠¹、
 木下 朝博²、葛島 清隆¹、恵美 宣彦³
 1 愛知県がんセンター・研・腫瘍免疫、2 愛知県がんセンター・中央病院・血液細胞療法、
 3 藤田保健衛生大・医・血内、4 名古屋第 1 赤十字・血内
- P-06 K-ras の活性化変異に伴う高活性オートファジーによる CTL エピトープの産生**
CTL epitope generation through constitutively active autophagy induced by K-ras mutation
 ○ 岡村 文子、葛島 清隆
 愛知県がんセンター研究所・腫瘍免疫学部
- P-07 K562 由来人工抗原提示細胞による T 細胞の増殖抑制機能とその改善**
Abrogation of inhibitory effect of K562 based artificial APC on T cell
 ○ 谷本 一史^{1,2}、藤原 弘¹、安川正貴¹、A. John Barrett²、J. Joseph Melenhorst³
 1 愛媛大学大学院医学系研究科 血液・免疫・感染症内科学
 2 Hematology Branch, National Heart, Lung and Blood Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD, USA
 3 Abramson Cancer Center, Department of Pathology and Laboratory Medicine, Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania, Philadelphia, PA , USA
- P-08 HLA-A*24:02 拘束性アデノウイルス血清型 11 抗原特異的細胞傷害性 T 細胞の新規 エピトープの同定**
Identification of a novel HLA-A*24:02-restricted adenovirus serotype 11-specific CD8+ T-cell epitope
 ○ 今橋 伸彦¹、西田 徹也¹、伊藤 嘉規²、川田 潤一²、寺倉 精太郎¹、村田 誠¹、直江 知樹¹
 1 名古屋大学大学院血液・腫瘍内科学、2 名古屋大学大学院小児科学

P-09 マウスモデルでは、IL-21 の共発現は抗 CD19 キメラ抗原受容体発現 T 細胞の抗腫瘍効果を増強しない

Co-expression of IL-21 does not augment anti-tumor effects of T-cells expressing anti-CD 19 chimeric antigen receptor in xenograft mice

○塚原 智典^{1,3}、山本 千裕²、大嶺 謙^{2,3}、照屋 武志³、内堀 亮介^{1,3}、卜部 匡司¹、水上 浩明¹、
久米 晃啓¹、小澤 敬也^{1,2,3}

1 自治医科大学・分子病態治療研究センター・遺伝子治療研究部 2 自治医科大学・内科学講座・血液学部門
3 自治医科大学・免疫遺伝子細胞治療学（タカラバイオ講座）

P-10 臍帯血移植片拒絶症例におけるドナー HLA 特異的細胞傷害性 T 細胞とドナー HLA 特異的抗体の協働作用

Cord blood allograft rejection by coordinated donor-specific cellular and humoral immune processes

○葉名尻 良¹、村田 誠¹、杉本 恭子¹、村瀬 未帆¹、大橋 春彦²、後藤 辰徳¹、渡邊 慶介¹、今橋 伸彦¹、
寺倉 精太郎¹、西田 徹也¹、直江 知樹¹

1 名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学
2 名古屋医療センター・臨床研究センター

P-11 慢性骨髄性白血病患者の治療中に生じた最重症再生不良性貧血

Severe aplastic anemia developed during treatment of chronic myeloid leukemia

○岡本 晃直、赤塚 美樹、稲熊 容子、徳田 倍将、柳田 正光、森島 聡子、蟹江 匡治、山本 幸也、水田 秀一、
岡本 昌隆、恵美 宣彦

藤田保健衛生大学医学部 血液内科

P-12 同種造血幹細胞移植後に ITP を発症し、ステロイド療法、免疫グロブリン療法、脾摘が不応性であったが、細菌感染症を契機に完治した一例

A case of ITP after allo-SCT, it was refractory steroid therapy, IVIG, and splenectomy, but was cured in triggered by bacterial infection.

○青山 泰之、鬼塚 真仁、町田 真一郎、豊崎 誠子、川田 浩志、小川 吉明、安藤 潔

東海大学医学部血液・腫瘍内科

P-13 トリプトファン代謝産物のリンパ系腫瘍に対する効果

Tryptophan metabolites inhibit the proliferation of lymphoid malignancies

○諏訪 志穂子、霞流 彩、加藤 未有、渡邊 健、三浦 修、福田 哲也

東京医科歯科大学・血液内科

14:45 ~ 14:50 ブレイク

14:50 ~ 15:50 Buzz Session

座長：小澤 敬也（自治医科大学）、高橋 聡（東京大学）
モデレーター：小澤 敬也（自治医科大学）
高橋 聡（東京大学）
門脇 則光（京都大学）
秋永 士朗（協和発酵キリン株式会社）
峰野 純一（タカラバイオ株式会社）

15:50 ~ 15:55 ブレイク

15:55 ~ 17:00 セッション 4（一般講演 S4-1 ~ 5）

抗腫瘍尾エフェクター細胞

座長：小笠原正浩（札幌北楡病院）
西田 徹也（名古屋大学）

S4-1 成人 T 細胞白血病 / リンパ腫マウスモデルにおける autologous 設定での患者由来 Tax 特異的 CTL による免疫療法

Autologous Tax-specific CTL therapy in a primary ATL cell-bearing NOD/Shi-scid, IL-2R γ null mouse model

○正木 彩子¹、石田 高司¹、鈴木 進²、伊藤 旭¹、成田 朋子¹、山田 登美子¹、李 政樹¹、楠本 茂¹、小松 弘和¹、新実 彰男¹、稲垣 宏³、飯田 真介¹、上田 龍三²

1 名古屋市立大学 腫瘍・免疫内科、2 愛知医科大学 腫瘍免疫寄附講座、
3 名古屋市立大学 臨床病態病理学

**S4-2 末梢血リンパ球中の抗原特異的 CD8+ T 細胞および T 細胞受容体の網羅的・迅速解析
A novel cloning and expression system yields and validates TCRs from blood lymphocytes of cancer patients within 10 days**

○岸 裕幸¹、小林 栄治¹、水腰 英四郎²、小澤 龍彦¹、浜名 洋¹、長井 輝美¹、中河 秀俊²、金 艾順^{1,3}、金子 周一²、村口 篤¹

1 富山大・院・医学薬学研究部・免疫学、2 金沢大・院・医学系研究科・恒常性制御学、
3 ハルピン医科大学

**S4-3 Th1 様 $\gamma \delta$ T 細胞の体外増幅と Lenalidomide による抗骨髓腫活性の増強効果
Lenalidomide preferentially expands Th1-like $\gamma \delta$ T cells and enhances their anti-myeloma activity**

○原田 武志¹、中村 信元¹、三木 浩和^{1,2}、小田 明日香¹、天知 良太¹、岩佐 昌美¹、宇高 憲吾¹、藤井 志朗¹、賀川 久美子¹、尾崎 修治³、田中 義正⁴、松本 俊夫¹、安倍正博¹

1 徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 生体制御医学講座 生体情報内科学分野、
2 徳島大学病院 輸血・細胞治療部、3 徳島県立中央病院 血液内科、
4 長崎大学創薬研究教育センター

S 4 - 4 実臨床応用に向けたウイルス特異的細胞傷害性 T 細胞療法の開発
Clinical development of virus-specific T cells for adoptive immunotherapy

○藤田 由利子¹, 小野 敏明², 落合 央³, Ann M Leen⁴, 長村 文孝⁵, 高橋 聡¹, 森尾 友宏^{2, 3}

1 東京大学医科学研究所先端医療研究センター分子療法分野、

2 東京医科歯科大学大学院発生発達病態分野、3 東京医科歯科大学医学部附属病院細胞治療センター、

4 Center for Cell and Gene Therapy, Baylor College of Medicine、5 東京大学医科学研究所附属病院医療安全管理部

S 4 - 5 抗体療法と細胞療法を組み合わせたハイブリッド型抗腫瘍免疫療法の開発研究
Next generation anticancer immunotherapy; a hybrid option between cellular and antibody therapy

○藤原 弘¹、越智 史博¹、谷本 一史¹、朝井 洋晶¹、宮崎 幸大¹、岡本 幸子²、峰野 純一²、神田 輝³、
葛島 清隆⁴、珠玖 洋⁵、安川 正貴¹

1 愛媛大学 血液・免疫・感染症内科学、2 タカラバイオ（株）細胞・遺伝子治療センター、

3 愛知がんセンター 腫瘍・ウイルス学部、4 愛知がんセンター 腫瘍免疫学部、

5 三重大学 遺伝子・免疫細胞治療学

17 : 00 ~ 17 : 10 ブレイク

17 : 10 ~ 19 : 20 ミニシンポジウム（Mini Symposium 1 ~ 6）

免疫細胞培養ガイドラインと現場における対応

座長：葛島 清隆（愛知県がんセンター研究所）

平家 勇司（国立がん研究センター中央病院）

MS-1 HIV 感染症に対する免疫細胞療法の可能性
Immuno-cell therapy for HIV infection

○立川（川名）愛

東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野

MS-2 造血幹細胞移植後難治性ウイルス感染症に対するウイルス特異的 C T L 療法の試み

○高橋 義行

名古屋大学大学院医学系研究科小児科学・成長発達医学

MS-3 細胞療法への臨床試験支援組織の取り組み～免疫療法を中心として
Efforts of clinical study supporting organization toward cell therapies – mainly on immunotherapies

○長村 文孝

東京大学医科学研究所先端医療研究センター先端医療開発推進分野

MS-4 免疫細胞治療に供するための細胞加工 ～ 14 年間の歩み～

○ 田中 雅教

株式会社メディネット

MS-5 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律案」の作成について

Processes in preparing for the proposal of Act on Ensuring Regenerative Medicine Safety

○ 今井 浩二郎

厚生労働省 医政局 研究開発振興課

MS-6 免疫細胞培養ガイドライン（免疫治療関連 6 学会合同策定）について：
医療機関・研究施設に求められる基準

Guideline for cell processing facilities that provide products for immune cell therapy
(proposed by the immune cell processing guideline committee)

○ 森尾 友宏

東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野、同医学部附属病院細胞治療センター

19：20 ～ 19：25 閉会の挨拶

19：45 ～ 21：20 懇親会（情報交換会）

会場：キャッスルプラザ 3 階 孔雀北の間